

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価（3月28日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①知的好奇心を刺激し、表現力を伸長する授業を教員・生徒の相互で作り上げるため、ICT技術を積極的に取り入れ、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②学校行事を精選し、準備や運営についても効率的な計画を立てるとともに、生徒の主体性を活かした運営を行う。</p> <p>③「見通しをたてる」、「現状を把握する」、「自ら課題解決ができる」ことを、プログラミング教育の3つの柱とし、この3つの能力の育成を目指す。</p>	<p>①教育の情報化と情報教育を推進するための機能を強化し、組織的な取り組みに発展させる。</p> <p>②学校行事等を通して豊かな人間性とリーダーシップを育む。</p> <p>③「現状を把握する」ことに、より重点を置き生徒の能力を育成する。</p>	<p>① ICT機器を、授業や校務運営の場面でも合理的、効果的に活用する。</p> <p>②行事等に ICT機器を積極的に活用し、授業および他の領域において合理的思考を身につける。</p> <p>③生徒一人ひとりに自身の成長のために何が必要か考えさせる取組を授業に取り入れる。</p>	<p>①情報機器等を効果的に活用した学習活動の充実を図るために、個別最適な学びとして、日常的に活用できるような授業づくりを組織的に実行できたか。</p> <p>②生徒が主体的に情報機器類を活用した学校行事の運営ができたか。</p> <p>③生徒が意欲的に取り組む授業づくりを推進できたか。</p>	<p>①多くの職員がICT機器を活用した授業を展開しており、生徒が考える時間を多く計画し、個からグループへの共有を行うことで、主体的な活動を実践できた。</p> <p>②学校行事の際に、生徒自らが工夫を凝らし、自らの役割とその価値を考えて活動できた。</p> <p>③各教科の取組をとおして生徒が自分の「現状を把握する」ことができる授業づくりを目指す必要性を職員間で共有し、実施することができた。</p>	<p>①ICT機器類の充実化は図れているが、実際の使用方法のレベルが職員により異なるため研修等の企画と実施が必要である。</p> <p>②生徒は個人の機器類を合理的で効果的に使用することができている。セキュリティー等に係る指導は、今後必要である。</p> <p>③「魅力と特色ある県立学校づくり」のアンケート結果では回答生徒の90%以上が満足しているが、今後も研修会を計画的に実施して教科間で情報共有していく必要がある。</p>	<p>①今後もさらにICT機器の利活用の機会が増加することが予想されるので、効果的に活用できるように学校全体として教職員のスキルアップが必要である。</p> <p>②授業等を通して情報に関するモラルの向上に努めているが、今後も継続して指導していく必要がある。</p> <p>③アンケート結果については評価できる。今後はより継続的に授業改善に臨む必要がある。</p>	<p>①情報メディア等の特性を踏まえ、目的や状況に応じて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法を考える必要がある。</p> <p>②情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任や情報モラルについて、それらの背景を科学的に捉え、考察する必要がある。</p> <p>③各教科の取組をとおして生徒が自分の「現状を把握する」ことができる授業づくりを実施することができたが、今後も継続的に行う必要がある。</p>	<p>①ICT機器環境整備のために、電子黒板の導入も計画されている。単元ごとに生徒の学習理解状況を確認し、適材適所な学習分野でICT機器類を活用できるよう研修等も効果的に行う。</p> <p>②一人一台の端末をもつ生徒が安全な環境で学びを続けるために、セキュリティに係る仕組みやその教育の構築は複数の教科で横断的に行う。生徒がICTに関わる時々に情報リテラシーの一部として丁寧な指導も行う。</p> <p>③今後も、研修及び授業公開を実施して、プログラミング教育の視点を意識し続ける機会を設定し、アンケート結果が向上するように授業改善を行う。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の定着や規範意識の醸成などの日常生活指導上に関する課題とともに、いじめや問題行動、不登校・薬物乱用など、心や命にかかわる問題に対して適切な対応を行う。</p> <p>②学業との両立に留意し、部活動の適切な運営に努める。</p>	<p>①指導・支援方針の検討や情報交換を定期的におこなう、職員の共通理解のもと、生徒・保護者にアプローチするプロセスを確立する。</p> <p>②生徒とのコミュニケーションを十分にとり、生徒のニーズを踏まえた合理的かつ効率的・効果的な活動をおこなう、生徒の成長を促す。</p>	<p>①毎週来校するSC・SSWを含めた教育相談体制を確立させる。</p> <p>①SNS利用に関するモラルの向上をはかる。</p> <p>②部活動指導ガイドラインを準拠し、下校時間の順守、適切な活動時間・休養日等を設定し、生徒の目的や目標に応じた活動の場を設定する。</p>	<p>①月2回程度SC・SSW、教育相談コーディネーター、養護教諭とのミーティングが行えたか。</p> <p>①携帯電話教室や学年集会、LHR、情報の授業等を通じ、SNSに関するモラルの向上の意識づけができたか。</p> <p>②部活動アンケートで「目標や練習の目的を意識して、活動している」「部活動</p>	<p>①SC・SSW、教育相談コーディネーターとの情報交換を、SC・SSWがともに来校する日にあわせておこなうことができた。</p> <p>①SNSの使用についてモラルが向上したため、不適切な使用に関するトラブル数が減少した。</p> <p>②「部活動・同好会活動チェックシート」のすべての項目において「当てはまる」が半数を超</p>	<p>①サポートドックの年3回導入に関して、SC・SSWとのさらなる連携を図る必要がある。</p> <p>①新入生に対して携帯電話教室を4月中に実施するとともに、SNSの使用に関するモラルの向上について、折にふれて継続的に意識づけを行う必要がある。</p> <p>②「部活動と勉強の両立」で、約3割の生徒が「どちらともいえない・できて</p>	<p>①サポートドックの導入により生徒の状況を把握できたことは評価できる。今後はその情報を教職員間で共有して、生徒の支援を行ってほしい。</p> <p>①SNSの適切な利用については本校に限らない問題なので、今後も折に触れて継続的に生徒に意識付けをする必要がある。</p> <p>②生徒がきちんと挨拶できる点は十分評価できる。生徒の傾向について分析する必要がある。</p>	<p>①SC・SSWと教育相談コーディネーターとの生徒情報の交換・共有については、コミュニケーションがうまくとれて、一定の成果がえられた。</p> <p>①SNSの利用に関するトラブルは減少傾向にあった。</p> <p>②部活動においては、多くの生徒が主体的に参加し、成長の様子がうかがえる。部活動と勉強の両立について、深く検証する必要がある。</p>	<p>①SC・SSWと教育相談コーディネーターの間で共有された生徒情報を、職員全体で共有する体制を整えていく。</p> <p>①携帯電話教室や学校行事の前後等に注意喚起を行う。</p> <p>②部活動アンケートについて、「部活動と勉強の両立」で「どちらともいえない、できていない」を選択した生徒の現状を顧問総会等で把握し、話し合いの場を設定して、各部顧問間で情報共有して改善していく。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				と勉強の両立」「部活動の状況に満足」の結果が半数を超え、かつ、「できていない」の結果が2割以下となったか。	えることができた。	いない」を選択している状況を全顧問に周知し、改善していく。			
3 進路指導・支援	①変化の早い社会、進路情報へ適切な対応ができる組織体制の整備をし、生徒が将来を積極的に開拓し、実現につなげる能力を育む。 ②生徒が自ら「情報収集・選択・提供」を積極的に行い、継続的に「チーム西湘」としての進路意識を高めていく。	①生徒のキャリア形成に資する進路行事・情報共有方法の組織化を図り、生徒・教員の進路開拓意欲を高め、生徒が自ら動き出し、教員がその後押しを積極的にできるようにする。 ②組織的な出願指導に重要な情報の蓄積・共有方法の整理を行い、適切な情報提供を迅速にできる体制づくりを行う。	①LHR、オンラインを使った講演会、説明会などの開催とスピード感のある情報共有をし、常に最新の情報の分析・発信を行う。 ②生徒・保護者・教員間での進路情報の様々な共有方法の組織的な確立を図り、相互理解の高い進路指導を行う。	①生徒が主体的に進路選択をし、納得できる選択をすることができたか。 ②情報へのアクセス回数、進路相談の件数を増やすことができたか。	①昨年度までよりも対面の講演会や大学等現地に行って進路選択の機会を与えることができた。また、状況に応じた情報の提供、動機づけによって生徒が主体的に進路選択できた。 ②出願指導に必要なソフトの利用方法、進路情報共有などの確立をすることができたので、相談件数が増加した。	①各学年での進路ガイダンス等の実施計画を時期と実施方法を再構築し、先を見据えた進路相談・情報提供体制を構築する。 ②学校研究・入試方式の研究を継続的に行い、生徒の志望にあった情報提供、共有を行う。生徒・保護者からの相談を学年で共有し、回答内容の共有を迅速に行う。	①進路選択について生徒に主体的に考えさせるための取組を行っている点については評価できる。今後も継続してもらいたい。 ②理系の生徒は比較的に早い段階で進路決定できているようであるが、指定事業であるプログラミング教育と絡めて進めてみることも考えられる。	①進路の最新情報について積極的に情報収集に努め、情報を発信するだけでなく活用する方法の共有が昨年度よりもできた。その活用を主体的に行い、分析できる力を今後つけていきたい。 ②出願指導等に活用するソフトの活用について、昨年度よりも早い段階で共有することができたが、機能をフルに活用できたわけではなかった。活用する情報の種類、活用方法、タイミングについてさらに研究が必要である。	①キャリア教育は主体的に進路選択することができる力を育成することが重要である。HR・探究活動等を通して生徒が自分自身と向き合う活動を増やすことにより主体的な選択をできるような仕掛けをする。 ②生徒が主体的に必要な情報にアクセスする方法の整理を行い、教員側の理解を深めつつ生徒が選択・判断できる環境を充実させていく。
4 地域等との協働	①非常時に対応できる体制作りを推進し、地域と協働した防災活動に取り組む。 ②PTAや近隣の学校等との交流・連携事業を行い、地域の教育力を活用する。	①迅速かつ的確に災害応急活動が実施できるように防災教育を行う。また地域住民との協力体制の確立を図る。 ②PTA活動の活性化を図るとともに地域連携した活動を検討する。	①地域住民・教員・生徒間で災害時の対応を共有し、防災意識を高める。 ②外部機関と連携して体験談等を聞く機会を設け、生徒の進路選択に役立てる。	①地域住民と合同の避難訓練を実施できたか。 ①防災マニュアルの見直しが行われたか。 ②地域住民や卒業生を講師に招き、講演会や研修を開催できたか。	①防災訓練を2回実施した。津波を想定した訓練では15名の住民参加があった。 ①防災マニュアルを見直し、改訂版を作成した。 ②対面での講演会は実施できなかったが西湘テレビを活用してキャリア形成に活かせる話をしてもらった。	①地域住民への周知が徹底しなかったため早めに防災計画を立てる。 ①毎年マニュアルを見直し、現状に即したものに作り変えていく。 ②西湘テレビの活用方法を模索し、外部から広く講師を依頼し、進路実現に役立てる機会を設ける。	①マニュアルを見直し、地域協働の防災訓練を実施したが、地域住民の防災意識も高く、例年より多くの住民が参加できた点は評価できる。今後も、継続して実施していく必要がある。 ②次年度以降、HR教室に電子黒板が設置される予定であり、進路行事だけにとらわれず、西湘テレビの効率的な活用を考えていく必要がある。	①机上研修から実際に避難訓練を行うことで、避難する際の問題点及び職員役割分担を見直すことができた。また、地域住民から学校への要望を把握することができた。 ②PTAや同窓会等と連携して講演を実施するに至らなかった。各方面の人々と協力して生徒の学びが深まる機会を提供する必要がある。	①地域住民を含めた避難訓練を計画・実施するとともに、訓練をとおして防災に対する意識の向上を図る。また、マニュアルの見直しを図る。 ②生徒及び保護者のニーズに合った講演会を企画し、情報機器を活用して、多くの人が参加できるように工夫する。また、文化祭や体育祭以外にも、学校に関する情報について回覧板等をおして地域住民に提供し、学校への理解を深めてもらう。
5 学校管理 学校運営	①生徒と向き合う時間を潤沢にするため、教員の働き方改革を推進する。	①業務の精選及び効率化を目指すとともに、会議の設定を必要最小限にとどめる。	①業務の見直しを行い、稟議等の活用により会議を効率的に実施する。	①会議の時間短縮や回数を減じることができたか。	①稟議を活用して企画会議の効率化を図り、年間実施回数を昨年度比2割弱とすることができた。	①今後はさらにグループ間の情報共有を図り、会議前に原案をしっかりと固める必要がある。	①教員の働き方改革の視点から、効率化を図る必要があるため、さらなるスクラップ・アンド・ビルドに期待する。	①会議等について、仕事のスリム化を図った点は成果として挙げられる。今後、新たな業務が必要となった際にスクラップできるかが課題である。	①次年度以降に向けて、組織変更等を考えていく。